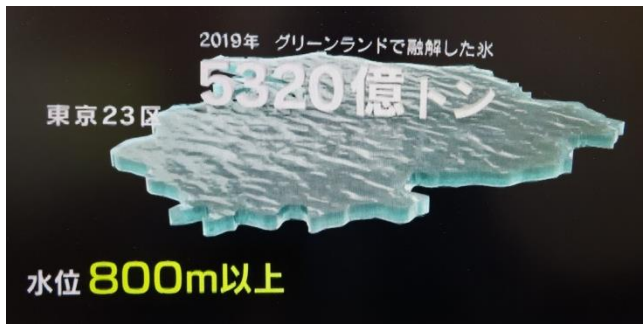


# いま 産業革命前 +1・2℃ 世界で深刻な事態 NHKスペシャルから

## グリーンランドの氷が氷解



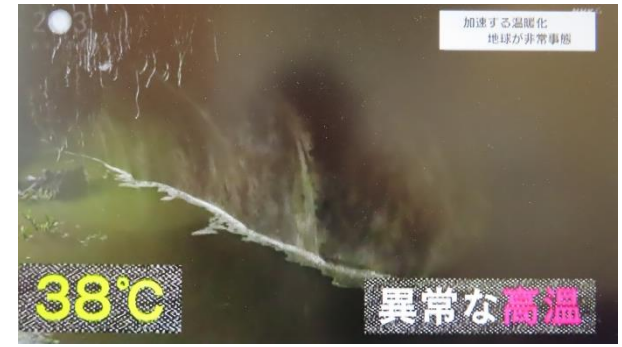
年間、東京23区の面積で水位800m以上に及ぶ氷が溶けだす

## 乾燥と高温で山火事が広がる



年間、日本の面積の1・7倍の森林が焼ける

## シベリアの永久凍土が溶け出す



新種のウイルスが見つかり、新たな感染症のリスク拡大

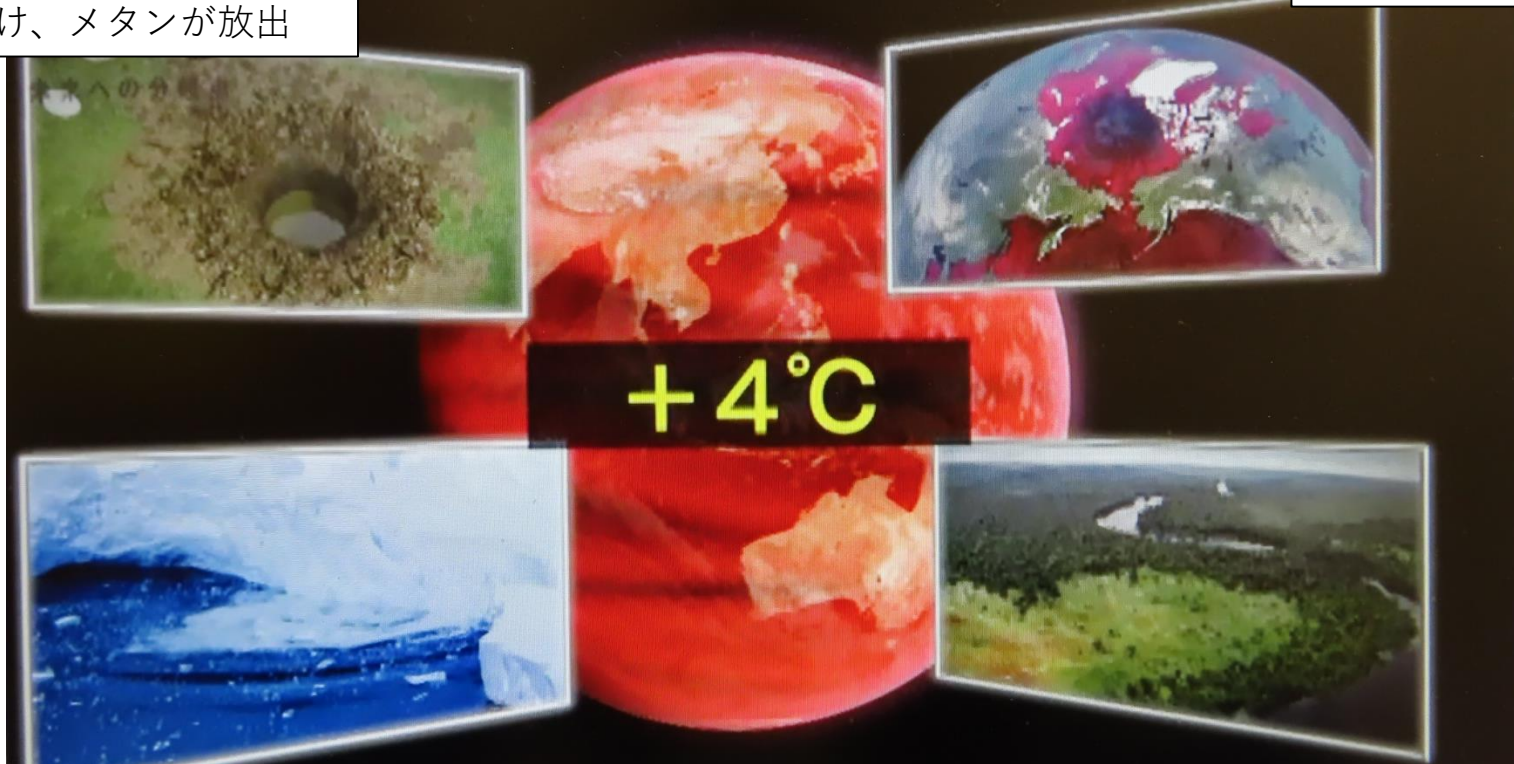
2021年3月16日 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生  
出典 NHKスペシャル「2030 未来への分岐点 (1)「暴走する温暖化 “脱炭素” への挑戦」2021年1月9日  
をもとに山下芳生事務所作成

# このままいくと2030年 +1・5°Cに 臨界点超えると地球が暴走

NHKスペシャルから

シベリアの永久凍土の氷が解け、メタンが放出

北極圏で氷が縮小



南極で、氷の融解が加速し、海面が上昇

アマゾンで高温や乾燥で、森がサバンナに変化し、森が蓄えていたCO<sub>2</sub>が放出

## これらが連鎖し、2100年には+4°Cに

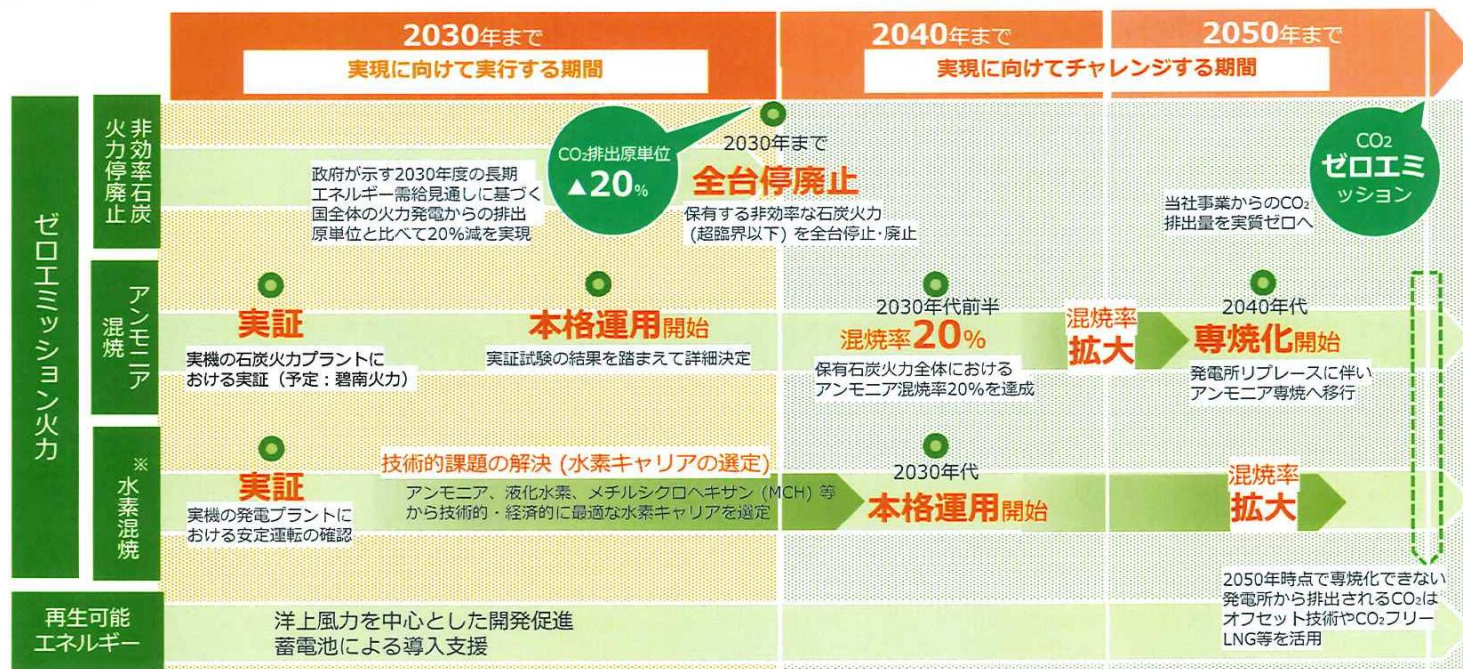
2021年3月16日 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生  
出典 NHKスペシャル「2030 未来への分岐点 (1)「暴走する温暖化 “脱炭素” への挑戦」2021年1月9日  
をもとに山下芳生事務所作成

資料 2



# 「JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ」と「JERA環境コミット2030」

## JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ



本ロードマップは、政策等の前提条件を踏まえて段階的に詳細化していきます。前提が大幅に変更される場合はロードマップの見直しを行います。 ※ CO<sub>2</sub>フリーLNGの利用も考慮しております。

## JERA環境コミット2030

JERAはCO<sub>2</sub>排出量の削減に積極的に取り組みます。国内事業においては、2030年度までに次の点を達成します。

- 石炭火力については、非効率な発電所(超臨界以下)全台を廃止します。また、高効率な発電所(超々臨界)へのアンモニアの混焼実証を進めます。
- 洋上風力を中心とした再生可能エネルギー開発を促進します。また、LNG火力発電のさらなる高効率化にも努めます。
- 政府が示す2030年度の長期エネルギー需給見通しに基づく、国全体の火力発電からの排出原単位と比べて20%減を実現します。

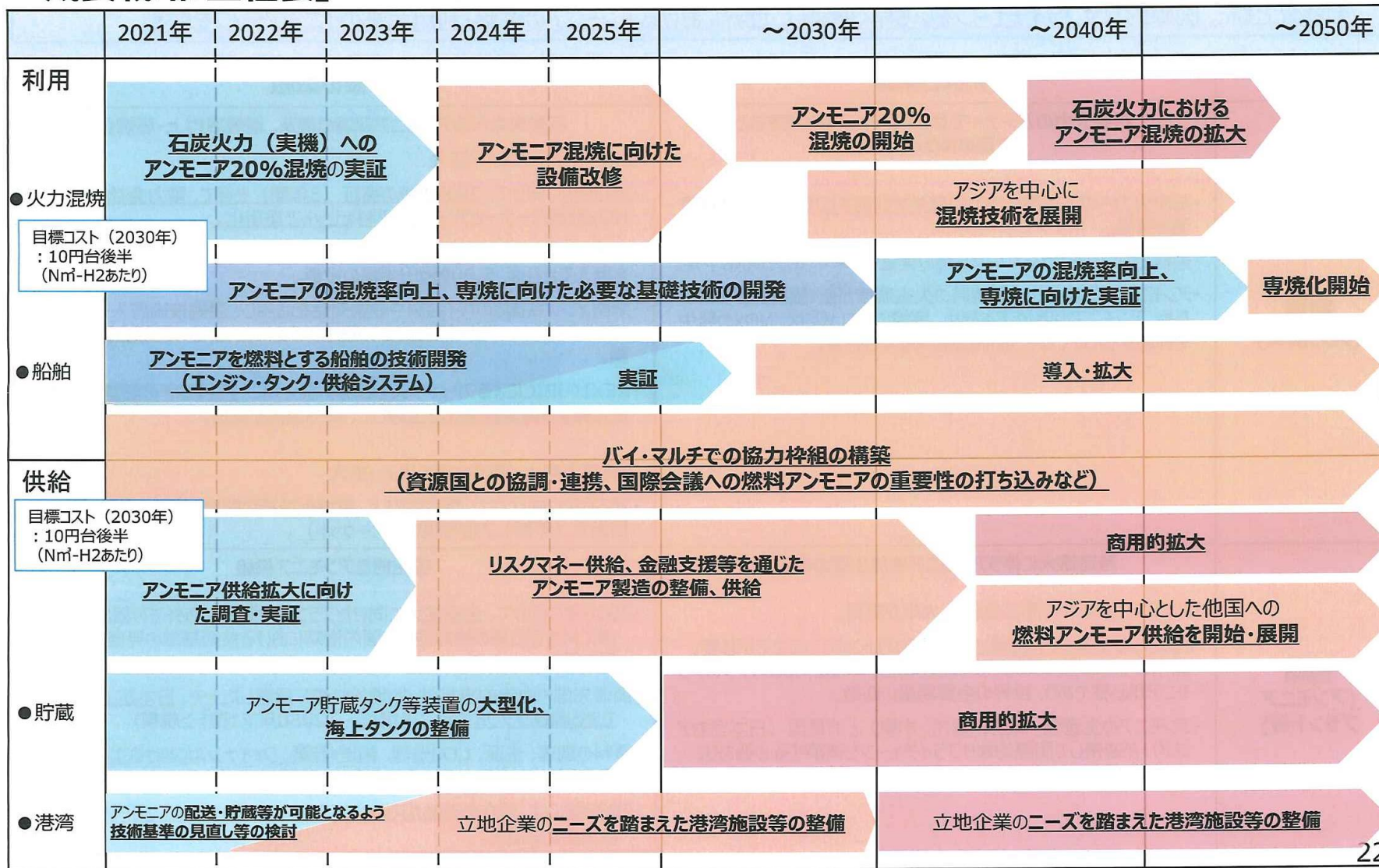
「JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ」、「JERA環境コミット2030」は、脱炭素技術の着実な進展と経済合理性、政策との整合性を前提としています。当社は、自ら脱炭素技術の開発を進め、経済合理性の確保に向けて主体的に取り組んでまいります。



## ②燃料アンモニア産業の成長戦略「工程表」

●導入フェーズ： 1. 開発フェーズ 2. 実証フェーズ 3. 導入拡大・コスト低減フェーズ 4. 自立商用フェーズ

●具体化するべき政策手法： ①目標、②法制度（規制改革等）、③標準、④税、⑤予算、⑥金融、⑦公共調達等



目標コスト（2030年）：  
10円台後半（Nm<sup>3</sup>-H<sub>2</sub>あたり）

目標コスト（2030年）：  
10円台後半（Nm<sup>3</sup>-H<sub>2</sub>あたり）

## #JERAに届け私たちの声

name: りな

気候変動対策、  
間に合いますか？



FFFYも電話してみた



りながJERAに聞いたかったこと???

横須賀石炭火力はゼロエミッション  
だから大丈夫…って言うけど  
ゼロエミッション火力って  
なんなんですか？  
気候の危機に間に合いますか？



それに対して、JERAからの返答は……

ゼロエミッション火力とは  
アンモニアを混ぜることで  
石炭を燃やさないようにすること。  
**この技術は10年以内には実現しない。**

再エネは不安定なので  
パリ協定と整合するための  
『先進国は2030年石炭火力全廃』  
というのはいけません。

と、言うものでした。  
ですが……



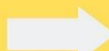
気候危機は待たないです。

アンモニア混焼技術などの技術革新を  
10年以上待つことはできません……

気候変動対策は、『いま』  
行なわなければいけないのに

今から新しく石炭火力発電所をつくっては  
危機を回避することはできません…

あなたも日本で1番大きな火力発電企業で  
あるJERAにアクションしませんか？



私たちと一緒に  
JERAに声を届けて  
くださる方を  
募集します。



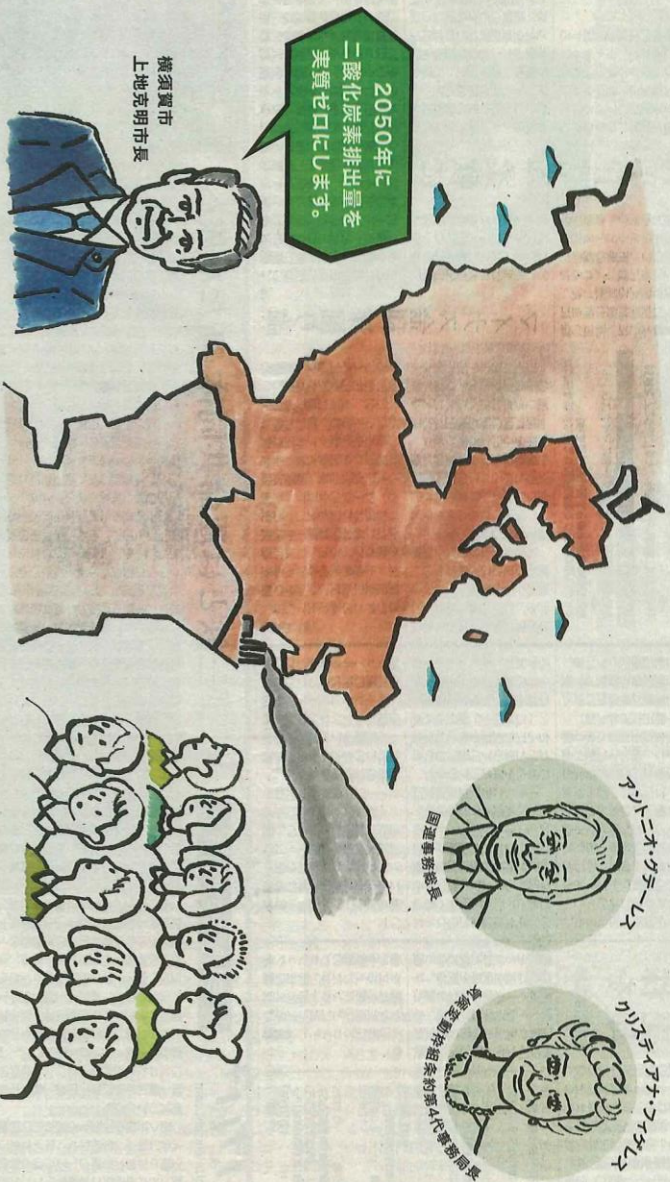


意見広告

# 横須賀市ゼロカーボンシティ宣言を歓迎します。 CO2を増やす新規の石炭火力発電所はいりません。

## 2050 Zero Carbon Yokosuka

“先進国は2030年までに石炭火力を段階的に廃止し、途上国は2040年までに段階的に廃止するよう要請します” — アントニオ・グテーレス 国連事務総長  
“石炭火力発電所を建設する余裕はもう世界中どこにもありません” — クリスティナ・フィリス 気候変動枠組条約第4代事務局長



横須賀市の上地克明市長は1月29日、横須賀市ゼロカーボンシティ宣言を発表、『2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロ』を目指し、脱炭素社会への移行に向けた条例制定とともに、地球温暖化対策の取り組みを進めていくことを宣言しました。横須賀市長がこの宣言を発表したことを心から歓迎いたします。

一方、横須賀市では、株式会社JERAが久里浜浜に石炭火力発電所(65万kW×2基)の建設を進めており、1号機は2023年、2号機は2024年稼働予定とされています。同社では昨年10月に「2050年ゼロエミッション宣言」したにもかかわらず、石炭火力発電所の建設を進めています。二酸化炭素排出ゼロに向けた道筋はどのように示されるのでしょうか？

新たに建設される石炭火力発電所(2基)から排出される年間のCO2排出量は726万吨/年と非常に大きく、横須賀市の温室効果ガスの排出量である約188.8万吨-CO2/年

(2017年度)の約3.8倍にも相当する量です。この横須賀火力発電所の建設を継続させ、今後稼働するようになれば、脱炭素社会への移行は逆行することになります。

気候危機を回避するために、(V)協定で目標としている「産業革命前に比べて気温上昇2度を十分に下回り1.5度に抑制する(1.5度目標)」を達成するためには、世界全体の温室効果ガス排出量を2030年には2010年比で45%以上、2050年には排出ゼロにするという道筋を描くことが不可欠です。

ゼロカーボンシティ宣言では、「市民・市民団体・事業者と連携して地球温暖化対策の取り組みを進めていく」としています。今後、横須賀市において、持続可能なエネルギーシステム構築に向け、石炭火力発電所のゼロカーボンの見直しに事業者、JERAと共に舵をきり、脱炭素社会を牽引する自治体となることを期待します。

私たちは横須賀市議会に対しても「気候非常事態宣言」の発出を求めます。



詳しくはこちら  
Japan Beyond Coal  
<https://beyond-coal.jp>



広告主：認定NPO法人 気候ネットワーク TEL.03-3263-9210  
石炭火力を考える東京連の会 横須賀火力発電所建設を考える会  
Friday's For Future Yokosuka



自然環境を大規模に破壊しない、地域社会も共生できる、資源が枯渇しない再生可能な発電システムを応援しています。